

田沢・里地区の流雪溝整備今後どう進めていく

町長…可能な限り早期に整備を促進します



関 幸悦 議員



改良が望まれる小菅小林線

横山・田沢地区の整備は現在1期工事計画のなかで、横山本郷・来迎寺地区の工事が順調に進んで、今年の冬から一部利用可能となっております。2期工事計画となっている田沢・里地区の整備をどう進めようとしているのか。

町長 横山・田沢地区の面的整備事業採択に向けて努力していきます。

再質問 冬期間、横山・伊蔵堰土地改良区の水を利用して小菅、来迎寺地区で排雪をしているが、富並川から取水をし、最上川に放流するのが最善と思うが考えは。

町長 水の安定的な確保が条件となりますので、現在の状況では地区全体に対応するには不十分です。早期に整備したい考えですが、現段階で時期を明確にすることは困難です。

再質問 田沢地内の流雪溝で、蓋が金網になって

いる所があり、老朽化して大変危険であると住民から言われている。計画の中で解消する考えは。

町長 計画とは別に、不備なところは事業とあわせ対策をしていきます。

町道小菅小林線の拡幅工事の早期実現を

沿道には、加工会社があり町民も多く就労しています。朝・夕の通勤時には多くの車両と大型の業務用自動車が行き交っています。地区民の長年の要望となっている拡幅工事を今後どのように進めていくのか。

町長 振興実施計画では、24年度に測量設計をし、25年度に改良工事を計画しています。拡幅工事の必要性は認識していますので、財源のめどがつけば、工事を実施したいと考えています。

その際には地区の皆さま、土地の所有者の方々のご協力をお願いする考えです。

再質問 国道との交差点や沿線の道路が狭いなど

事故が多発しています。危険箇所を早急に解消する考えは。

町長 状況は十分認識しています。限られた財源ですべての全面拡幅工事は困難ですが、危険箇所を解消することについては、充分検討します。

農家に対する町独自の支援対策は

昨年と比べ資材、肥料、農家の負担が増え生活不安になっています。JAみちのく村山、一般業者と情報を交換しながら支援対策をとるべきではないか。

町長 肥料の高値が続きましたが、最近ようやく落ち着きを取り戻してきました。的確に状況を把握して、JAみちのく村山や関係団体と緊密に連携して対応していきます。



万が一に備えての操法大会



遠藤 宏司 議員

町民の失業が増えるなか行政のできる対策は

大石田電子は4月に工場を閉鎖し、約20人の方が職を失っている。町全体の失業の状況を把握する必要があり。総務省の集落支援員制度は国が財政を支援します。集落支援員を置き、雇用対策と同時に過疎地の集落対策を進めることはできないか。定年を迎えた団塊の世代の仕事を確保するために、この制度を利用できないか。

町長 集落支援員制度は、地域の実情に詳しい人材を活用し、集落ごとの現状や課題解決の話し合いを促進するため、行政にアドバイスしてもらうものです。雇用確保とは違

うので、今は設置の予定はありません。始まったばかりの制度で、新過疎法制度とのかかりで支援がどのように変わるのかも注視し、設置には慎重に判断する必要があります。

防火栓や防火水槽のサイホンのペンキがはげたり、ホース格納ボックスが錆びてたり、ホースが傷んでたりしている。各地区と消防団が保守・管理しているが、あらかた保つておく責任の所在を明確にしたほうがいいのではないかと。さらに補充・整備の必要なものは各地区に自分の負担をお願しし早急に改善をはかるべきではないか。

町長 施設の整備は町で行い、管理は消防団と地区に自主管理をお願いしています。

備品については、消防車両や半鐘の修繕は町が

防災施設や備品の保守・管理の責任を明確に



雇用対策で剪定中の街路樹

行い、管理は消防団にお願いしています。防火栓ボックスの設置は町で行うことになっていきます。常に万全を期すため、各区長や各消防団と連携して対応していきます。

集落支援員制度を活用し雇用対策をできないか
町長：国の支援がどのように変わるのか慎重に判断する